

# ぶらりわが街宮沢界隈

## (30)戦後のまちづくり—復興から今—

敗戦により、市域にあった軍需工場は、解体命令や操業禁止命令が出され一切の操業が停止されてしまい、従業員多くは市域を離散し、人口は敗戦を境に約一万四千人も減りました。特に昭和町の人口は、前年の半分になってしまいました。

しかし、市域には閉鎖された軍需工場の施設や工員住宅など、多くが空き家として残ったためその後、中国や朝鮮など、海外からの引き揚げ者や戦災により家を失った人々に提供されることになりました。昭和22年(1947)昭和町の受け入れ者は千四百五十二所帯にものぼり、拝島村でも、23年(1948)～25年(1950)の間に、戦災者四百十四名、引き揚げ者六百二十二名を受け入れ、再び市域の人口は増加し始めるのであつた。

### ○ 陸軍航空工廠(こうしょう)の戦後

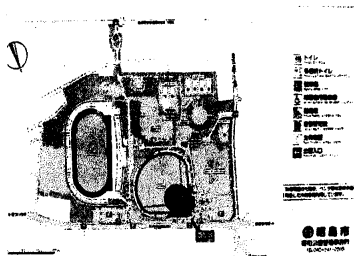
陸軍航空工廠は、昭和20年(1945)9月4日解散。すでに戦況悪化により19年(1944)7月～9月にかけて部品加工・機体・発動機の各部門は疎開。20年4月には、技能者養成所が埼玉県児玉町へ疎開されており、解散時には多くは工場施設等のみ残っていた状況でした。

航空工廠の跡地の現状—立川飛行場の西側地域の一部は、返還後の58年(1983)11月26日開園の「国営昭和記念公園」内に、残堀川西側は関東財務局所有の国有地→平成19年(2007)9月7日法務省が跡地(70ha)に国際法務総合センター計画を発表。20年(2008)2月21日北川市長が受け入れ表明、現在は施設への道路・上下水道等整備中。さらに西側一帯すなわち「昭和郷」は、その北端から南に都営の中層(4～7階)の住宅群が建ち並んでいる。「都営中神第二アパート」である。更に南にかけて「社会法人恩賜(おんし)財団東京都同胞(どうほう)援護会」が管理している老人ホーム・老人の救援・養護・保育園(2カ所)及び東京医科大関連の昭島病院などの諸施設。跡地最南端は市立富士見丘小学校(昭和24年(1949)町立開校)・学校の西側は現在町並みがあるが、その中で「富士見湯」は当時の浴場の場所です。跡地で平和利用されるものもあつた。青梅線東中神駅～西立川駅南沿いの技能養成所で、現東町2丁目一帯は22年(1947)5月町立(現市立)昭和中学校開校から24年(1949)1月町立(現都立)昭和高等学校・29年(1954)4月町立(現市立)東小学校開校。さらに、48年(1973)5月市立図書館開館。現東町5丁目一帯は23年(1948)町立総合運動場＝市立昭和公園開園。敷地内に現在市営の陸上競技場・市民球場(平成22年(2010)新装)・テニスコート・総合スポーツセンター(平成16年(2004))市営。38年(1963)小動物公園開園。ともに旧陸軍関係の宿舍や用地を利用したものであつた。

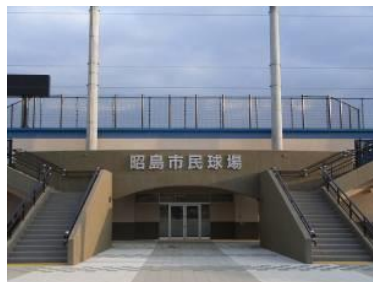
### ・ 立川基地引込線跡—「引込線モニュメント」平成12年(2000)3月設置—中神町1359

中神駅北に昭和18年(1943)開通。航空工廠への資材運搬用路線で、戦後に接收されそのまま米軍専用線1.9km(中神空軍側線)となり主に航空機燃料や重油を搬送。立川基地全面返還により、昭和53年(1978)7月1日廃止。線路跡は「中神引込線通り」となり、南北分岐点に設蓄。

記 防犯宮沢支部 西山 禎一



市立総合運動場地図



昭島市民球場



引込線モニュメント